21. 新しい HBs 抗原検出用 RIA キットの検討

金森　勇雄　川上　文浩　疋田　稔
岩崎　浩康　樋口ちづ子　山田　行雄
中野　哲　（大垣市民病院・放）
佐々木常雄　（名技短・放）

今回われわれは HBs 抗原検出用キット (SORIN BIOMEDICA) の基礎的検討を行った．〔結果〕(1) 洗浄操作回数は 3 回でよい．(2) インキュベーション条件：第 1 は 2 時間で 45°C，第 2 は 1 時間で 45°C で良好なる測定結果が得られる．(3) 再現性：他の HBV 関連抗原・抗体検出用 RIA キットと大差ない．(4) 希釈試験：ほぼ満足すべき希釈効果を認める曲線が得られた．(5) Cut off index の信頼性：HBs 抗原濃度と cut off index は比例関係にあると示唆される．(6) 本法と OUSRIA II-125 との相関：$r=0.502$ ($p<0.05$, $n=43$) であった．以上のごとく，本法は HBV 関連抗原・抗体検出用 RIA キットに比し，容易なる操作で HBs 抗原を検出し得るキットと考える．

22. ^{125}I-IMP と ^{3}H-2-deoxyglucose を用いた二重標識オートラジオグラフィの基礎的検討

隅屋　寿　松田　博史　関　宏恭
辻　志郎　大場　洋　寺田　一志
久田　欣一　（金大・核）
柴　和弘　森　厚文　（同・RI セ）
池田　清延　（同・脳外）

^{125}I-IMP と ^{3}H-2-deoxyglucose (^{3}H-DG) による二重標識オートラジオグラフィを 2, 2-dimethoxypropane (DMP) を用いた化学洗浄法により行った．血流は切片にルミラ膜をかぶせることにより ^{3}H-DG のベータ線を遮蔽し ^{125}I-IMP のみによるイメージとして，またグルコース代謝は切片を DMP で洗浄し IMP を洗いだすことにより ^{3}H-DG のみによるイメージとして得られる．今回の検討では，DMP による洗浄 (10分×4回) で DG はほとんど影響を受けないが IMP は 98% が洗い出された．また，洗浄を受けた切片はルミラ膜をかぶせると露光を示さなかった．

23. 炭酸リチウム併用による甲状腺機能亢進症の治療効果

多田　明　高仲　強　立野　育郎
（国立金沢病院・放）
大口　学　（金医大・放）

炭酸リチウム（リーマス）は操病の治療薬であるが，甲状腺に対して甲状腺からのホルモンの放出を抑制することが知られている．I-131 による甲状腺の有効半減期の測定では 400 mg/日 でも約 30% 有効半減期が延長した．今回は 21 例のバセドウ病患者に 600 mg/日 を投与して，治療 1 か月目のホルモンの改善率をリーマス併用群と非併用群とで比較検討した．抗甲状腺剤にリーマスを併用した群では治療 1 か月目のホルモン値は治療前の 33% に減少したが，非併用群では 53% の減少にとどまった．放射性ヨードを行い，抗甲状腺剤とリーマスを併用した群では 1 か月に 40% までホルモンが減少したが，リーマスを併用しなかった群では 55% の減少であった．

24. モヤモヤ病の ^{123}I-IMP による脳血流像

辻　志郎　松田　博史　関　宏恭
隅屋　寿　大場　洋　寺田　一志
久田　欣一　（金大・核）

モヤモヤ病の症例 6 例に対して，術前 5 回術後 2 回，計 7 回の ^{123}I-IMP による脳血流シンチグラフィを施行した．

X 線 CT で negative の症例にても，IMP で血流低下部位が検出でき，手術適応，手術側の決定に有用であった．また，治療効果の判定，術後の follow up にも有用と考えられた．X 線 CT と CAG の所見の解離を示した症例では IMP は CT に近い所見を示した．

モヤモヤ病は小児に多く，侵襲的な検査は繰り返しが困難である．その点，IMP は容易に施行でき，虚血の範囲を客観的に評価可能で，手術側の決定，治療効果の判定，follow up に有用と考えられる．

Presented by Medical*Online